

人口問題「選ばれる阿智村」分科会報告書

研究テーマ 「消滅可能性自治体から持続可能な阿智村へ」

リーダー	大嶋 正男	サブリーダー	櫻井 芳一
委員	吉田 哲也	委員	田中 真美
委員	小林 義勝		

1. 提言の趣旨

本提言は、阿智村の人口問題を単なる人口の増減として捉えるのではなく、持続可能な地域づくりのあり方という観点から整理し、今後の政策の方向性を示すものである。

人口減少は全国的な課題であり、地方自治体間で人口獲得競争が激化している。単独村で人口を増やすこと自体を目的とした政策には限界がある。

本分科会では、住民ミーティングや意見交換を重ねる中で、「住み続けたいと思える地域づくり」こそが人口問題への本質的な対応であるとの認識に至った。

人口は政策の目的ではなく、住民一人ひとりが安心して暮らし、地域に誇りと愛着を持ち、「住み続けたい」「戻ってきたい」「関わり続けたい」と思える村づくりの結果として現れるものである。

本村が目指すべき姿は、

「選ばれる阿智村」から「選び続けられる阿智村」への転換である。

2. 基本理念

人口は政策の目的ではなく、

「幸せに暮らせる村の結果として現れるもの」である。

したがって本村の人口政策は、以下の状態の実現を目的とする。

- ・住み続けたいと思える暮らし
- ・子ども世代が将来住みたいと思える地域
- ・外から来た人が地域に自然に溶け込める環境
- ・人口減少社会に適応できる持続可能な地域社会

すなわち、人口の量的拡大ではなく、暮らしの質（安心感・満足感・幸福感）の向上を基軸とする政策へ転換する。

3. 阿智村の可能性（戦略前提）

阿智村は、中山間地域として様々な課題を抱えている。

一方で、

「活かしていきれていない地域資源や、将来の発展につながる可能性を持つ村」である。

（1）立地優位性

- ・ 東京圏と大阪圏の中間に位置する地理的優位性
- ・ 名古屋圏への良好なアクセス
- ・ リニア中央新幹線の開業効果
- ・ 三遠南信自動車道の整備進展
- ・ 木曽谷と伊那谷を結ぶ交通結節点

これらの条件を活かすことで、「通える田舎」として高い潜在力を持っている。

（2）ブランド資源

- ・ 日本一の星空
- ・ 昼神温泉
- ・ 多様な地域文化
- ・ 農山村景観
- ・ ユニバーサルツーリズムなど誰もが訪れやすい環境づくり

これらは、他地域にない本村独自の魅力であり、ブランド形成につながる資源である。

（3）地域の多様性

浪合、清内路をはじめ、それぞれの地域が独自の歴史や文化、自然環境を有している。

阿智村は「一つの村」でありながら、多様な地域が集まり、それぞれの暮らし方を選ぶことができる可能性を持っている。

4. 現状の構造課題

住民ミーティングや各種意見交換を通じて、次のような課題が明らかとなった。

- ・担い手不足
- ・住宅不足
- ・情報発信の不足と情報の分散
- ・移住者や子育て世帯の孤立
- ・教育と地域の連携不足
- ・行政対応の属人化
- ・人口減少に伴う自治会運営や地域活動の負担増
- ・生活基盤の脆弱化
- ・多文化共生環境の未整備

これらの背景には、制度そのものの不足だけではなく、「人と人との関係性」や「地域を支える仕組み」が十分に機能していないという共通した課題が存在している。

5. 政策転換の方向

人口政策は、次の方向へ転換する必要がある。

- ・数値目標中心から暮らしの質中心へ
- ・単発施策から継続可能な仕組みづくりへ
- ・行政主導から官民協働へ
- ・個別最適から全体最適へ

人口減少社会に対応するためには、個々の施策を積み重ねるだけではなく、行政、住民、事業者、学校、各種団体などがそれぞれの役割を果たしながら、地域全体で支え合う持続可能な地域づくりへ転換していくことが必要である。

6. 重点提言

【提言1】

推進体制の再構築（最優先）

人口政策は、施策の有無ではなく、「機能しているか」が問われている。

人口政策を持続的に進めるためには、部署横断で地域と行政をつなぐ体制が必要である。

そのため、人口政策を特定部署だけの業務とせず、各部署の役割を明確にしたうえで全庁的な課題として位置づけ、行政、住民、事業者、移住者、関係人口等をつなぐ中間支援機能を整備し、継続的な推進体制を構築する。

(提案)

- ・コーディネーター機能の制度化
- ・専門人材の育成と継続配置
- ・移住・定住の全庁横断目標化
- ・官民連携の常設組織の設置
- ・地域と行政をつなぐ中間支援機能の整備

(ポイント)

「人」と「体制」を最優先で整備する。

※本提言は、本提言書に示した各施策を実現するための基盤として位置付ける。

【提言 2】

住宅・空き家政策の構造改革

人口政策最大のボトルネックは住宅である。

(提案)

- ・空き家コーディネーターの配置
- ・終活コーディネーター等との連携
- ・段階的公開モデルの導入
- ・改修支援と税制度の見直し
- ・二拠点居住・お試し住宅の整備
- ・村と民間事業者との連携強化
- ・村による情報発信の充実

(ポイント)

住宅供給の改善なくして人口政策は前に進まない。

【提言 3】

移住・定住の伴走支援

定住の成否は、移住直後だけではなく、その後の地域との関係づくりによって左右される。

(提案)

- ・継続的な伴走支援体制の整備
- ・相談窓口の一元化
- ・地域慣習の事前共有
- ・地域と移住者をつなぐ仲介人材の育成と配置
- ・移住者ネットワークの形成支援
- ・移住者と地域住民の交流機会創出

(ポイント)

「呼び込む」から「定着していただく」へ。

【提言 4】

教育・子育て・家庭支援環境の再設計

教育・子育て環境の充実、最も重要な人口政策である。

特に、「阿智村こども計画」の理念を着実に実現し、教育、福祉、地域が連携しながら、子どもと家庭を継続的に支える仕組みを構築することが重要である。

子ども支援だけでなく、保護者支援を含めた総合的な支援体制を整備し、子育てに不安や困難を抱える家庭が孤立することなく、必要な支援につながることのできる環境づくりを進める。

(提案)

- ・教育ビジョンの明確化
- ・学校・地域・学童・福祉の一体的な連携
- ・教員支援体制の強化
- ・子どもの居場所づくりと相談環境の充実
- ・保護者支援体制の強化
- ・保護者同士がつながる場づくり
- ・子育て世帯が孤立しにくい地域づくり
- ・「阿智村こども計画」に基づく施策の実施状況を毎年度検証し、その成果を住民にわかりやすく公表する仕組みの構築

(ポイント)

「教育環境」の充実だけでなく、「安心して子どもを育て、つながりを感じられる村」を実現するとともに、住民が施策を理解し、その成果を実感できる子育て政策を推進する。

【提言 5】

地域文化の持続可能な継承

地域文化継承の前提は「続けたい」と思えることである。

守ることだけを目的とせず、楽しさと参加しやすさを実感できる継承へ転換する。

(提案)

- ・ 行事の再編（選択と集中）
- ・ 楽しさを実感できる設計
- ・ 変化を前提とした継承
- ・ 阿智村スクールコミュニティ構想との連動

(ポイント)

「守る文化」から「育ち続ける文化」へ。

【提言 6】

自治会・地域運営の再設計

人口減少社会に適応した地域運営への転換を進める。

(提案)

- ・ 役割の棚卸し
- ・ 負担軽減
- ・ 広域化・統合の検討
- ・ 人口減少前提モデルへの転換
- ・ 村と自治会が役割を共有し、官民協働による地域運営を進める仕組みづくり

(ポイント)

「維持」から「再設計」へ。

【提言 7】

情報発信と関係人口の創出

情報発信のあり方を見直すとともに、生活者目線による共感型の情報発信に転換する。

(提案)

- ・地域別ストーリー発信
- ・個人発信の支援
- ・SNS 活用促進
- ・移住者ネットワークの再構築
- ・情報発信における担当部署と役割の明確化

(ポイント)

「共感」へつなげる「発信」を。

【提言 8】

地域産業と雇用基盤の強化

働き続けられる環境づくりは人口定着の基盤である。

(提案)

- ・若者が働ける地域内雇用の創出
- ・農林業・観光・ジビエ等の収益性向上
- ・人材育成
- ・起業への支援
- ・起業しやすい環境づくり
- ・地域企業育成支援
- ・企業誘致
- ・働きやすい職場環境づくり

(ポイント)

暮らしと仕事を一体で設計する。

※本提言は各施策を横断する基盤として位置付ける

【提言 9】

多文化共生の推進（将来対応）

外国人住民を含む多様な人々が共に暮らせる環境整備を進める。

(提案)

- ・外国人住民との共生方針の明確化
- ・生活支援・相談体制の整備
- ・地域との相互理解の促進

(ポイント)

「受け入れる」から「共に暮らす」へ。

7. 将来像

阿智村は、「一つの村」の中に、多様な地域、多様な価値観、多様な暮らし方が共存する村である。

- ・各地域の伝統・文化
- ・各地域の教育環境
- ・各地域の暮らし
- ・各地域の自然環境
- ・農山村景観
- ・星空

これら、それぞれの地域が持つ個性や魅力を大切にしながら、「自分に合った暮らしを選べる村」を目指す。

また、住民一人ひとりが多様な価値観や暮らし方を認め合い、世代や地域を越えて支え合い、それぞれが地域とのつながりや居場所を実感できる村を目指す。

その積み重ねが、「選ばれる阿智村」から「選び続けられる阿智村」への転換につながるものとする。

8. 総括

人口は結果である。

人口政策の本質は、住民一人ひとりが安心して暮らし、地域に誇りと愛着を持ち、「住み続けたい」「戻ってきたい」「関わり続けたい」と思える村をつくることにある。

そのためには、

- ・楽しい
- ・安心できる
- ・誇りを持てる

この三つを実感できる暮らしを実現していくことが重要である。

特に、子どもと家庭が安心して暮らせる環境は、持続可能な地域づくりの基盤であり、「阿智村こども計画」の理念を着実に実現していくことは、将来の人口政策にもつ

なかる重要な取組である。

また、人口減少社会においても、行政だけでは地域を支えることはできない。一層重要になるものが「住民との協働」だと考える。

住民、事業者、学校、各種団体、そして議会が、それぞれの役割を果たしながら協働し、地域の魅力を次の世代に引き継いでいくことが求められる。

本提言が、持続可能な地域づくりの実践につながり、「選び続けられる阿智村」の実現に寄与することを期待する。

ミーティングメンバー（15名）